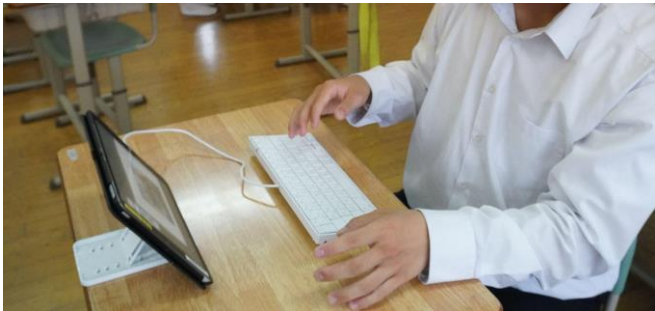


1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	新見市立大佐中学校	実践者名	河崎 純平
教科等	総合的な学習の時間	学年	第3学年
		Stage	Stage 3
育成したい 資質・能力	自ら立案した課題【大佐町内のポイ捨て】の解決に向けた計画立案能力の育成		
単元・内容等	ふるさと学習 ～P0（プロジェクト大佐）発表会に向けた活動～		
児童生徒の実態 （端末活用頻度等）	タブレット端末内アプリ(keynote, imovie)を集会や学級内発表に利用できている。2学期からタブレットが新しくなり、新たに Google Workspace for Education の各種アプリを教科等で活用し始めている。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
（1）地域のゴミ拾い等のボランティア活動を通して、大佐町内のポイ捨てに関する問題を解決する計画を立案する。 （2）クラスで、ゴミのポイ捨てを地域全体で減らしていくためにポスターを地域各所に掲示することを話し合う。 （3）ポスターの作成にあたり、手書き、アプリ、Web サイト等のいずれかを生徒が、より効果的に利用できるものを選んで作成する。 （4）各グループで決定したことをもとに、ポスターをまとめ、発表する。			
			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
2学期に入り、今までのタブレットの利用の仕方から、さらに Google Workspace for Education の各種アプリを選択肢に追加した運用となっているが、生徒の選択肢が増えすぎて混乱するのではないかと懸念があったが、授業を行ってみると自分たちで活用の方法を模索することができていたように感じた。今後の授業の利用で機能に慣れる必要があるように感じた。		（児童生徒の感想から） 「ゴミのポイ捨てを減らすために、どんなポスターが良いか真剣に考えることができた。」 「少しずつアプリケーションの活用に慣れてきている。」	